



カーボン・クレジット市場って？

◆温室効果ガス排出量を取引／脱炭素の取り組み推進

Q－カーボン・クレジット市場が開設されたって新聞で読んだけど、どういうものなの。

A－カーボン・クレジットとは、企業や自治体などが省エネ設備や再生可能エネルギーの導入、森林の間伐、植林などを通して削減した温室効果ガスをクレジット（排出権）として発行し、取引できるようにする仕組みです。排出量の削減が難しい企業がクレジットを購入して埋め合わせ（カーボン・オフセット）をしたり、クレジットを創出する側が収益を財源にして脱炭素に向けた一層の取り組みを進めたりすることができます。日本では温室効果ガスの排出削減・吸収量を国がクレジットとして認証する「J－クレジット制度」が2013年4月にスタートしました。

J-クレジットの主なメリット

創出者	ランニングコストの低減 省エネ設備の導入や再生可能エネルギーの活用により、ランニングコストの低減や、クリーンエネルギーの導入を図ることができる
	クレジット売却益 設備投資の一部を、クレジットの売却益によって補い、投資費用の回収やさらなる省エネ投資に活用できる
	地球温暖化対策への取り組みに対するPR効果 自主的な排出削減や吸収プロジェクトを行うことで、温暖化対策に積極的な企業、団体としてPRすることができる
購入者	環境貢献企業としてのPR効果 日本各地の森林保全活動や中小企業などの省エネ活動を後押しすることができる
	企業評価の向上 温対法・省エネ法の報告への活用や、各種企業評価調査などにおいてクレジット購入をPRすることで企業評価につなげることができる
	製品・サービスの差別化 製品・サービスに係るCO ₂ 排出量をオフセットすることで、差別化・ブランディングに利用可能

Q－昨年1月にこのコーナーで紹介した「カーボンプライシング」との関係は。

A－カーボンプライシングは、炭素の排出に価格を付けて排出者の行動の変化を促す経済的手法で、カーボン・クレジットはこの一種です。これまでは相対取引（売り手と買い手が直接、価格や数量などを合意する取引方法）が中心で、取引に時間や手間がかかったり、価格が不透明だったりして、あまり進んでいませんでした。取引の円滑化や価格の透明性を高めるため、22年9月から23年1月までの実証事業を経て、同年10月11日にカーボン・クレジット市場を開設し、カーボンプライシング機能の維持・向上を目指しています。

Q－市場ではどの程度取引されているの。

A－今年1月に売買が10万トンを超えましたが、実証事業の約15万トンにも届いておらず、活発な取引が行われているとは言えません。そのため、取引可能なクレジットを増やすことが重要です。省エネ、再生エネ、植林などの取り組みが進み、取引可能なクレジットが増えることで市場が活性化することが期待されます。

（この連載は北陸経済研究所の青井健祐が担当しました）